

2. 全学を通して重要な提言

2.1 提言概要

今回で4回目となる学勢調査ですが、学勢調査2010・2008・2005（以下「過去の学勢調査」とします）と同様に、学生からの意見がたくさん集まりました。今回の学勢調査の回答を分析すると、大学が良くなっているという意見もありましたが、過去の学勢調査と同様に、大学の現状に対する様々な不満を述べる意見もあります。一方、過去の学勢調査の提言を受けて大学が改善を図っている事例にも関わらず、再度意見として挙がっているものも見受けられます。これは、大学からの情報がうまく学生に伝わっていないという現状によって引き起こされていると考えられます。

これらの問題点を解決するにあたり、学勢調査のスタッフで議論した結果、大学の情報を効果的に学生に伝えるシステムの構築と、学勢調査の提言を受けて、大学がどのように対応しているのかを積極的に学生に伝える機会を設けることが必要だという結論に至りました。

2.2 現状分析

学勢調査2012で挙げられた意見のうち、大学からの情報がうまく学生に伝わっていないという現状が見られる意見は、大きく分けると3種類に分類できます。以下に、類型別の例を挙げます。

類型1 今回の調査で新たに出された事例

～工大祭の日程変更について～

- 2011年度までは、工大祭の前日と翌日は終日休講となり、それぞれ準備日、片付け日とされていましたが、2012年度からは工大祭の日程が従来より2週間早くなり、前日が水曜日の講義日程、翌日が体育の日で祝日となりました。
- そのため学生から「工大祭の期間を今まで通りに戻してほしい。オープンキャンパスとして重要な日、準備にもそれなりに時間がかかる。休日を減らすのは非効率この上ない。別の日で授業を補うべき。」「工大祭の日が夏休み明けすぐで、後片付けの日を祝日で代用するのはやめてほしい」といった意見がありました。

学生支援課とのキャンパスミーティングで得た情報によると、この日程変更は学期内に15週の講義を確保するための措置であるそうですが、多くの学生はこの事実を知らないため、このような意見が出されているのだと考えられます。

大学は、もっと多くの学生にこの日程変更の理由について周知すべきです。



2. 全学を通して重要な提言

類型2 現状では改善の見込みがないに出された事例

～駐輪スペースと自転車の登録～

- 自転車の駐輪スペースが不足しているという意見は、過去の学勢調査から継続して出されています。
- 今回の学勢調査でも「4.5 自転車について」で取り上げています。

教務課・施設運営部とのキャンパスミーティングで得た情報によると、現在の駐輪スペースの数や新たな駐輪スペースの設置の是非は大学に登録された自転車の総数により決められており、現在の駐輪可能台数は大学に登録された自転車の台数を上回っているそうです。しかし、「4.5 自転車について」でも挙げられているように、放置自転車の半数以上が未登録であり、また図 2-1 より、毎年一定数の学生が未登録で使用しています。

このようなデータを考慮すると、実際のところは駐輪スペースが不足しているのかもしれませんが、この問題については、自転車の利用登録を通して大学に十分なデータを提供していない学生側に問題があると言えます。

大学側も、駐輪スペースは学生の利用登録が前提で決められているという事実の周知を図ることが大切です。

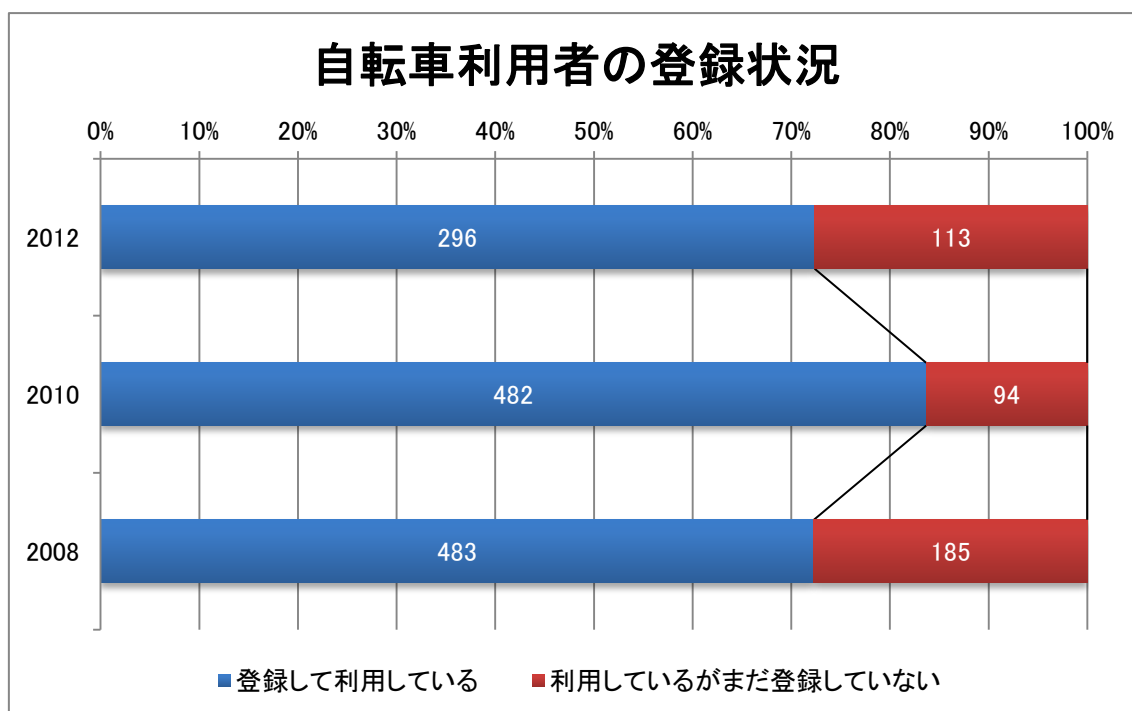


図 2-1 自転車利用者の登録状況



類型3 改善されたのに上手く活用されていないという事例

～電子掲示板～

- 過去の学勢調査の結果、重要情報が思いのほか学生に届いていない、あるいは相互交流のための情報共有が難しいという実態が明らかになり、その対策として、電子掲示板が導入されました。
(参照：<http://www.siengp.titech.ac.jp/bbs.html>)
- このような経緯で設置された電子掲示板ですが、人通りが多い場所に設置されているため立ち止まって見ることが難しく、通り過ぎる学生に情報が伝わらない、逆にじっくり見たい学生にとっては一つの情報の表示時間が短い、という現状があります。

この学勢調査の情報も電子掲示板で配信されていましたが、図 2-2 から見て取れるように電子掲示板で学勢調査を知ったという学生は少なく、効果的な情報発信が行われているとは言いがたいです。

そのため、電子掲示板単体ではなく、他の手段とも組み合わせたより効果的な情報発信が必要です。

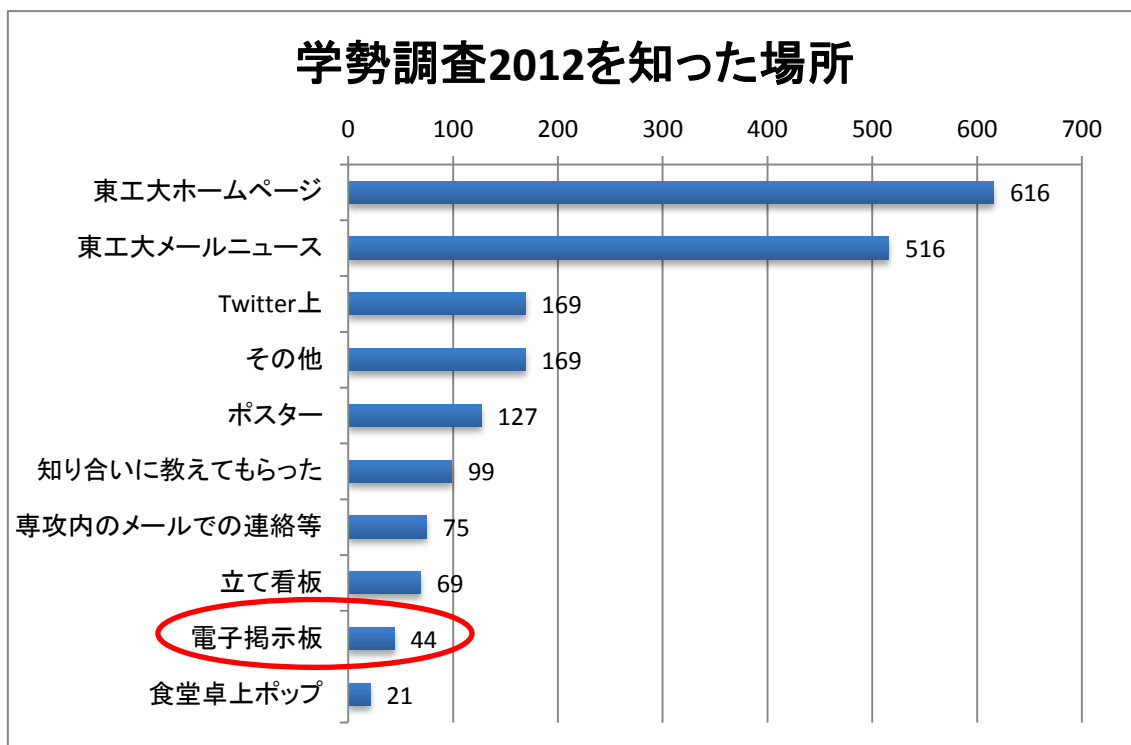


図 2-2 学勢調査 2012 を知った場所



2. 全学を通して重要な提言

学勢調査 2010 では、学生側がより意見しやすいシステムの構築、学生のニーズの把握や相互理解を促進する方法を提案するために、「事前アンケート・説明会」「学生モニター」「意見交換ポータル」の 3 通りのシステムの設置が提言されました。

しかし、2013 年 3 月の段階で設置されているのは、学生からの意見を直接学長に伝えるための「学長ご意見箱」だけであり、その存在自体もほとんどの学生には知られていません。このシステムをより有用なものにするためには、学生により周知させることが必要です。

ここで、学生が大学の情報をどのように得ているのかを確認します。

図 2-3 より、学勢調査 2012 のデータでは「OCW/OCW-i・教務 Web」から情報を得ている学生が最も多いです。これは学勢調査 2010 と比較して唯一増加している項目となっており、大学からの情報発信が改善されていると言えます。

しかし、学勢調査 2008 から毎年割合は減少していますが、依然として高い割合を保っている情報源が「友人」です。図 2-3 に挙げられた選択肢の中で唯一大学が関わっていない情報源であり、図 2-4 で示されているように、学生が一番有用だと考えている情報源でもあります。

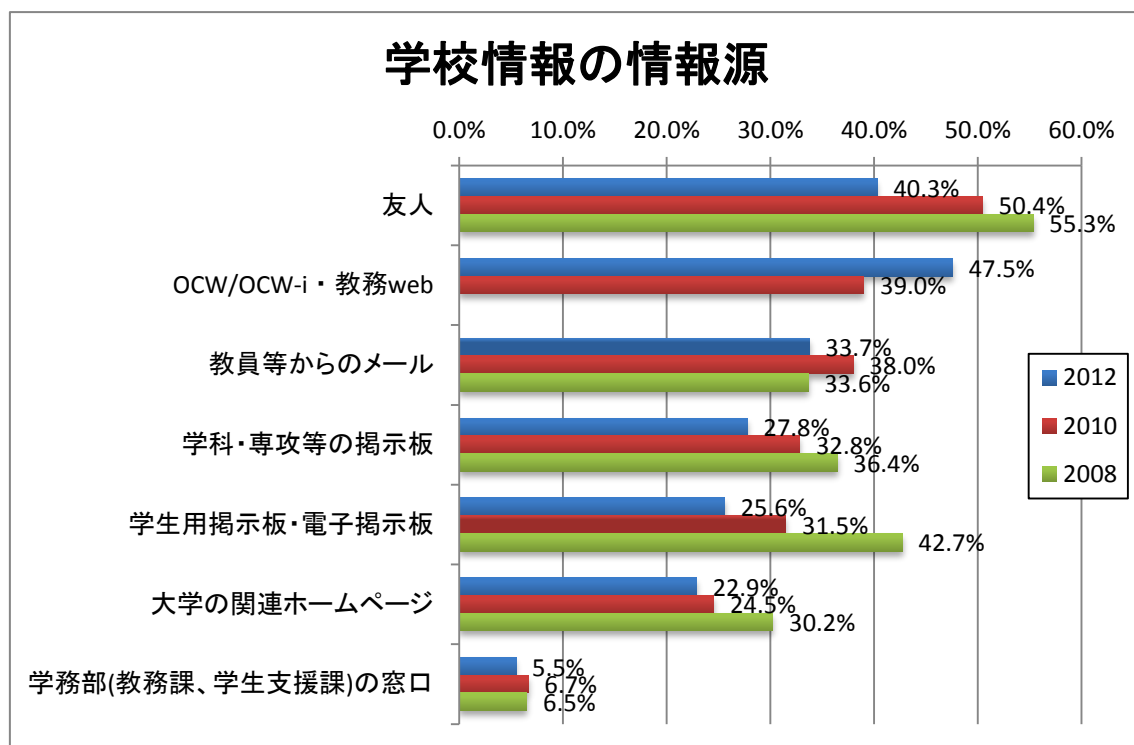


図 2-3 学校情報の主な情報源（上記選択肢の中から 3 つまで選択）



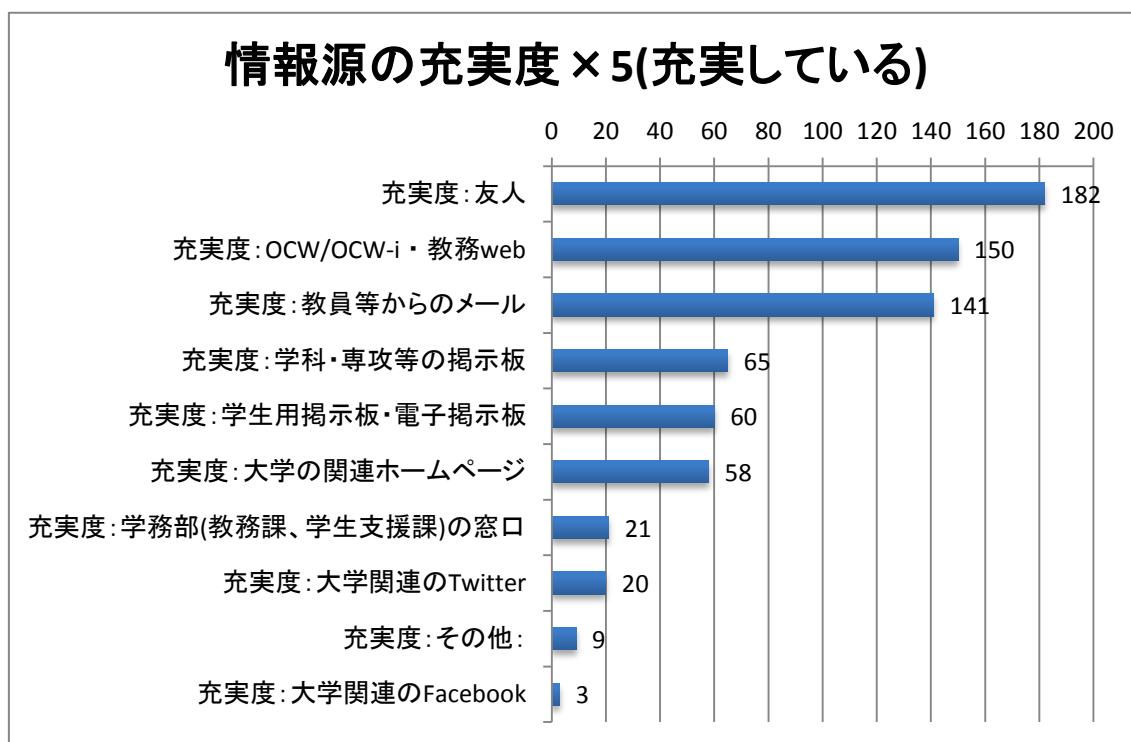


図 2-4 利用する情報源の充実度で 5 (充実している) を選択した人数

このように、大学からの情報発信が改善されているにも関わらず、依然として学生同士での情報共有が最も有用とされています。そのため、大学の情報をよりの確に発信するためには、この「友人」という情報源を無視することはできません。



2. 全学を通して重要な提言

2.3 具体的提言

これまで述べてきたように、現状では大学から発信されている情報が的確に学生に伝わっていない事例があります。

そのような問題を解消し、これまで以上に的確に学生に情報を伝えるためには、学生にとって一番信用されている友人同士の情報網に、大学からの情報を伝えることができれば良いと考えます。そうすれば、より多くの学生の興味・関心を大学に向けることができ、大学からの情報をよりの確に学生に届けることができます。

このようなシステムを考案する際には、学生が大学の正確な情報を確実に得られるシステムであること、単発ではなく継続的な情報発信が行えること、という2点が満たされるように検討する必要があります。

(1) 学生が大学の正確な情報を確実に得られるシステムを構築すること

現状で実施されている大学からの情報発信でも友人同士での情報共有は見込めますが、友人を通じた情報には、有用であっても不確実な情報がたくさんあります。

学生の持つ情報の精度を上げるためには、大学からの情報を発信する側に学生も関与させるシステムを構築することが考えられます。自主的に集まってきた学生だけでなく、幅広い層の学生を集められるシステムとして機能させることが重要です。

(2) 継続性があること

学勢調査スタッフのように隔年で募集するシステムではなく、年間を通して高頻度で実施できるシステムにすることが大切です。

以上の点を踏まえ、具体案として学生モニターの設置を提言します。

学生モニター

～友人同士の情報網を通して大学からの情報を伝える～

- 各学科・専攻から均等に抽出された学生達によって構成される組織。
- 大学からの情報伝達の間として機能させる。
- 学勢調査の結果を踏まえた大学の取り組みもここで発表する。
- 学生側の意見を集めるという役割も担う。

このシステムは、学生への情報伝達の確実化という点において一定の効果を見込むことができ、大学と学生の新たなあり方を社会に向けて発信する革新的な試みともなる可能性があります。学生モニターを継続的な組織とするためにも、学生に広く周知するための努力や工夫を続けていくことが大切です。

